

## 放射性セシウムのイネへの移行（第3報）

根本圭介

東京大学大学院農学生命科学研究科・栽培学研究室・教授

研究科復興支援 WG の作物生産・土壌グループでは、現地圃場における栽培試験、大学における室内実験、農家圃場でのサンプリングなどを通じて、水田環境との関わりを含めたイネへの放射性セシウムの移行の仕組みの解明に取り組んできた。こうした調査の一環として、今年度は福島大学・東京農業大学の先生方とともに、福島県伊達市による稲の試験作付け（昨年度コメのセシウム吸収が高かったために今年度は作付け制限を受けた地域における、要因解明のための試験栽培。実施にあたっては試験水田の地権者および地元住民組織の方々、JA 伊達みらい、福島県伊達農業普及所より多大なご協力を頂戴した）を支援させていただいた。今回の報告会では、この試験作付け研究チームを代表して、得られた主要な知見を紹介したい。

主な研究従事者：作物生産・土壌グループ（栽培学研究室、森林利水及砂防工学研究室、放射性同位元素施設、生態調和農学機構）、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター（石井秀樹助教ほか）・東京農業大学土壌学研究室（後藤逸男教授ほか）、野川憲夫助教（東京大学アイソトープ総合センター）、伊達市産業部農林課。



写真 今年、60 枚の水田を対象に試験栽培を実施した伊達市小国地区。